

尖閣諸島、千島列島は日本の領土

道理ある立場で 世界に働きかけます

日本共産党

尖閣諸島をめぐる問題や、ロシア大統領の千島訪問など、いま領土問題が大きな問題になっています。日本共産党は、道理のある立場で世界に働きかけ、平和的な解決をめざします。



尖閣列島問題

政府は日本領有の正当性を堂々と世界に主張を

そもそも、尖閣諸島は、1895年1月の閣議決定で日本領に編入されて以降、中国は1970年までの75年間、一度も日本による領有について異議も抗議も行っていません。

中国や台湾が尖閣諸島の領有権を主張しはじめたのは1970年代に入ってから。国連が69年に石油天然ガスの海底資源が豊かに存在する可

能性を指摘してからです。

日本共産党は、日本政府に尖閣諸島の領有の正当性を、国際社会と中国政府に堂々と主張する外交努力を求めます。また、日本共産党として、党の見解を発表。中国をはじめ各国政府に届け、世界に働きかけています。

千島列島問題

全千島返還の立場に転換を

日本共産党は、ロシア大統領による千島列島の国後（くなしり）島訪問を、これからも占有し続けようという意思表示として、強く抗議しました。

そもそも、千島列島は、平和的な外交交渉で日本の領土と確定されたものです。ところが、スターリンが、北海道の一部である歯舞・色丹とともに千島列島を国際法に違反して、一方的に旧ソ連領に編入して、領土問題が起こったのです。

日本政府も、サンフランシスコ講和条約で千



島を放棄してしまい、いままで、「国後、択捉両島は千島ではない」という無理な理屈で、歯舞、色丹両島とあわせ「北方四島返せ」と言い続けてきたために、交渉は全く進展しませんでした。

日本政府は、いまこそこれまでの方針を転換し、道理のある「全千島返還」の立場でロシアにも、世界にも働きかけるべきです。

日本共産党がこうした道理ある外交路線をつらぬけるのは、アメリカにも中国にもロシアにもズバリモノの言える自主独立の党だからです。

民意をきりすてる比例定数削減に反対しましょう